

特集1
special feature

青森市の歴史を知る秋

タイムスリップ

は く ぶ つ か ん

博物館

暮らし

鉄道

昭和

ロケ地

森と人との
結びつきが
分かる

実は“日本初”

あ お も り し し ん り ん は く ぶ つ か ん

青森市森林博物館

図 青森市森林博物館(☎017-766-7800)

全国初となる「森と木を考える博物館」として、昭和57年に開館しました。建物は、県産ヒバ材を使用したルネッサンス式洋風建物で市の有形文化財に指定されています。



建物は明治41(1908)年築で、青森、岩手、宮城の3県で7千人規模の職員を擁した旧青森営林局の本庁舎でした。近年は西洋風のドレスなどのコスプレで写真撮影に訪れる観光客も増えています。展示では、「日本三大美林」に数えられる、青森ヒバの実物も活用した詳細な解説が自慢の一つです。

1階の第1展示室「森と仲間たち」でひときわ目を引く、樹木の根の実物の展示

あの映画のロケ地にも!

2階にある旧営林局長室は、映画「八甲田山」の撮影で使われました。映画の雰囲気が復元された部屋で、あの俳優たちが演じた映画の雰囲気を味わってみませんか。

八甲田山
といえば
こちらも!はっこう だ さん せつ ちゅう こう ぐん そうなん し りょう かん
八甲田山雪中行軍遭難資料館

図 八甲田山雪中行軍遭難資料館(☎017-728-7063)



明治35(1902)年に隊員210人中199人が亡くなった大惨事を、史料に基づいた模型、映像などで解説しています。「映画や小説は史実と違う部分もあり、来館して史実を知っていただければ」と同館の担当者。今年7月、雪中行軍隊の山口鋌少佐の親族から勲章などの遺品を寄贈され、未公開資料展示会を計画中です。



涼しく、過ごしやすい秋。芸術や文化に触れるのに適していることから「文化・芸術の秋」とも言われます。そこで今回の特集は青森市内にある博物館巡り♪地域に根付く博物館は、その土地ならではの風土、歴史、文化など細かな部分に触れることができます。青森市に住んでいながら未体験の場所も多いのでは。この秋は、文化・歴史の旅へ出掛けてみよう!

ヒバで作ったルネッサンス式洋館



樹齢数百年の青森ヒバの幹の輪切りもあります

『日本初の森林鉄道』
関連資料を展示しています

明治39(1906)年に着工し津軽半島一円に張り巡らされた、日本初の津軽森林鉄道の資料や、森林鉄道を走っていた車両の展示も、同館の大きな特色。映画「飢餓海峡」の撮影で使われた機関車を見ることもできます。

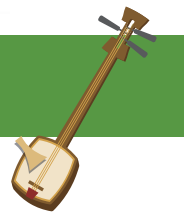
11/22 森博演奏会
「明治建築と津軽三味線」

時 11/22(土) 18:00~19:00

内 山上進さん(津軽三味線奏者)と明治建築の共演

料 一般250円、高校生・大学生130円(中学生以下・70歳以上は無料)

申 問 11/17(月)までに、イベント名・住所・氏名・年齢・電話番号を〒038-0012 柳川二丁目4-37森林博物館(☎017-766-7800、☎017-766-7803、✉info@aomori-shi.shinrinhakubutsukan.jp)へ ※申込み後の連絡はありませんので、当日お越しください。



12/6 クリスマスリース作り

時 12/6(土) 10:00~12:00 内 講師:森林博物館スタッフ

対 小学生以上(小学生は保護者同伴) 定員 12人(抽選)

料 一人1,000円

申 問 11/18(火)必着で、往復はがき(一枚2人まで)にイベント名・住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、〒038-0012 柳川二丁目4-37森林博物館へ ※付添いのかたは「付添」と記入

※イラストはイメージです。

青森の歴史や暮らしが分かる

あ お も り き た の ま ほ ろ ば れ き し か ん

あおもり北のまほろば歴史館



図 あおもり北のまほろば歴史館(☎017-763-5519)

縄文時代から近現代までの「暮らし」を中心とした展示が充実。木造漁船の貴重なコレクション、旧稽古館から引き継いだ明治時代などの古作のこぎん刺しや南部ひし刺しなど、さらには昭和の家電や家具などの生活用具……。懐かしさや発見にあふれた展示が来館者を魅了します。

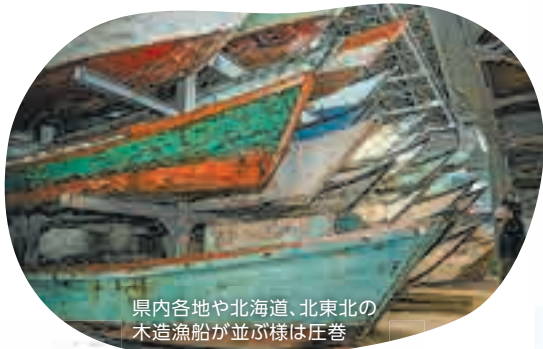
青森の「暮らし」が分かる展示物がいっぱい

油川地区で昭和初期まで薬屋を営んでいた商家を再現

津軽海峡圏の貴重な漁船群(右・国の重要有形民俗文化財)は、漁師たちが木造船を長持ちさせ、自分の船と分かるようにするため、多彩な塗装をしていました。1本の木を削った希少な丸木舟もあります。

古作こぎんなど(下)は従来、作者不明のものばかりでしたが、作者が分かる古作こぎんも数点展示しています。

同館には高さ約30cmの展望台もあり、青森港一帯はもちろん、八甲田連峰や岩木山、津軽半島、下北半島などの眺めが素敵です。



県内各地や北海道、北東北の木造漁船が並ぶ様は圧巻



北前船の4分の1のスケールの模型。船大工が本物と同じ技術で制作している

昭和の青森駅前を再現したこちらも!



こぎん刺しや南部ひし刺しなどの衣類を数多く展示。こぎん刺しなどを目当てに首都圏から訪れる人も多い



足踏み式のオルガン

せい かん れん かく せん め も り あ る し っ ぶ
青函連絡船メモリアルシップ
はっ こう だ ま る
八甲田丸



図 青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸(☎017-735-8150)

明治41(1908)年から昭和63(1988)年まで運航された青函連絡船の中で、最も長い23年7か月にわたって津軽海峡を往復し、最終運航船の大役も務めた八甲田丸を保存・展示。昭和30年代の青森駅前や連絡船待合室の風景を再現した展示「青函ワールド」や、鉄道車両を今も積載し連絡船が「海の鉄路」だったことを物語る「車両甲板」などが人気です。



八甲田丸内「青函ワールド」の焼きいも屋(右)とリンゴ屋

12/13 スゲで作る「玉しめ飾り」

「しめ飾り」は稲作文化が生んだ日本の習俗で、原型は神社などで見られる「しめ縄」にあります。このワークショップは、しめ飾りについてのミニ講座後、100本のスゲをねじりながら撚(よ)り、そこに松・笹たけ・水引・南天の実・稲穂・紙垂などを飾り付けます。来る年も多くの幸に恵まれますよう感謝と願いを込めたしめ飾りで、良いお正月を迎えましょう!

〈講師〉森山孝子さん(和の伝統文化体験教室「爽華」代表)

時 12/13(土)10:00~12:00 所 あおもり北のまほろば歴史館

人 10人 料 1,500円(材料費込み)

備 ズボンやエプロンなどの着用、汚れてもよい服装でお越しください。
はさみ、持ち帰り袋(30cm程度)持参

申 11/8(土)9:00~あおもり北のまほろば歴史館(☎017-763-5519)へ

あ お も り し ちゅう せい の や か た

青森市中世の館

図 青森市中世の館(☎0172-62-1020)

中世時代に津軽地域で勢力を誇った北畠氏の城跡「浪岡城」で発掘された武具や宗教具などを展示。北畠氏が日本の幅広い地域とつながっていたことを物語る物が多く、ワクワクします。浪岡地区の縄文遺跡などの展示も充実しています。



NHKのテレビ番組で紹介された、蓑虫山人の「石器土器図絵六曲屏風」(青森市指定文化財)

西秀記市長メッセージ

青森市の文化・歴史の旅に出掛けましょう!

秋は、時を旅する季節です。森林、海、そしてまちの記憶。青森市内各地の博物館施設を巡ると、先人たちの知恵と挑戦が今に息づく青森市の物語に出会えます。

文化・歴史を知ること、青森市の未来を照らすことに通じます。タイムスリップの旅へ、ぜひお出掛けしてみてください。

